

## 2017年度の民生家庭部門の二酸化炭素排出量について

### ■ 市川市周辺の2015年度～2018年度の民生家庭部門二酸化炭素排出量

【単位：千t-CO<sub>2</sub>】

自治体名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
市川市	536.7	575.1	647.8	578.7
船橋市	777	817	907	752
松戸市	589	627	694	589
浦安市	212	224	246	197

**2017年度は全ての自治体において排出量が増えている**

### ■ 本市の民生家庭部門の二酸化炭素排出量の算定方法と排出量の増加要因

#### ① 排出量の算定方法

- 燃料(電気・都市ガス・LPG・灯油)ごとに、年度あたりの消費量を算定し、これに燃料ごとの排出係数を乗じて二酸化炭素排出量を算定し合算。

#### ② 2017年度の二酸化炭素排出量が高くなった要因

- 電気消費に伴う二酸化炭素排出量が大幅に増加したことが原因です。  
※ 15年度:362.1 16年度:381.3 17年度:437.7 18年度:386.3
- 本市の電気消費量は、『都道府県別エネルギー消費統計(千葉県)』の家庭部門の電気消費量から計算しています。

### ■ 都道府県別エネルギー消費統計について国へ問い合わせた結果

Q:2017年度の千葉県の都道府県別エネルギー消費統計において、家庭部門の電気消費量が大幅に増加している原因として考えられるものはあるか？

A:本統計は他の統計を基に数値を算出する加工統計であり、家庭のエネルギー消費量は主に家計調査と県民経済計算を利用します。

なお、本統計では、電力の消費量は各都道府県の家計の電気代をエネルギー単価で割り戻すことで算出しています。

2017年度の千葉県の消費量が増えた原因は、**家計調査で2017年の千葉県における電気代の支出が例年よりも高かったことが原因**です。

※ 家計調査:総務省が毎月行う基幹統計調査。全国から無作為に抽出した世帯に一定期間、家計簿をつけてもらい、日々の収支を把握するとともに、年収・貯蓄・負債等も調査する。

表：二人以上世帯の電気支出額の比較（千葉市・全国平均）

年度	千葉市 二人以上世帯 家計電気支出額	全国二人以上世帯 年間平均購入額	千葉市 電力支出額 全国平均額比	【参考】 全国 年間電力消費量
	年間合計		単位：%	単位：10 <sup>6</sup> Kwh
	単位：円			
2015年度	108,972 円	132,715 円	82.1%	268,093
2016年度	104,338 円	121,196 円	86.1%	267,529
2017年度	128,941 円	123,739 円	104.2%	273,977
2018年度	125,196 円	129,175 円	96.9%	261,789
2019年度	114,819 円	129,905 円	88.4%	252,062

なお、2013年（平成25）年度から2017（平成29）年度までの、最高気温が30度を上回る真夏日と、最低気温が0度を下回る冬日の日数をみてみると、エネルギー消費量が増加に転じた2016（平成28）年度は真夏日が多く、2017（平成29）年度は冬日が多かったことが分かります。

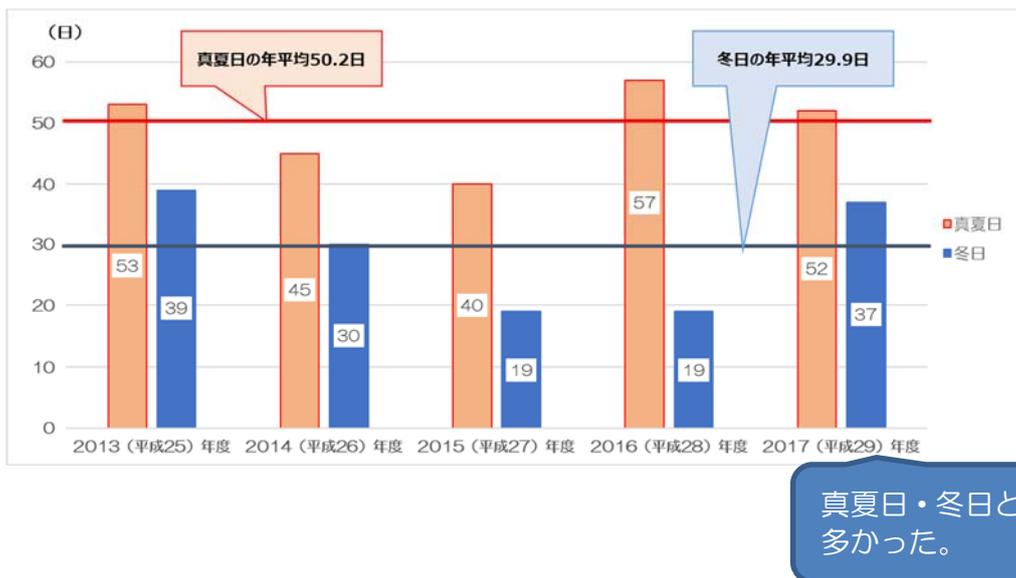


図 3-14 船橋観測所の真夏日（最高気温 30 度以上）と冬日（最低気温 0 度以下）の推移（2013 年度～2017 年度）

出典) 気象庁「月単位平均気温データ(船橋観測所)」をもとに作成

このことから、家庭の電気使用量は冷暖房の使用頻度の影響を大きく受け、その原因となっている気温をはじめとした気象条件の影響を大きく受けることがうかがえます。

結果として、民生家庭部門の二酸化炭素排出量は、気温をはじめとした気象条件に左右される部分ではありますが、人口や世帯数が増加している状況においても、家電のエネルギー効率の向上や省エネ行動の普及、さらに、電力の消費に伴って排出される二酸化炭素の推計に用いられている排出係数が低下（表 3-6）したことなどによって、エネルギー消費量が減少し、基準年度である 2013（平成 25）年度と比べて二酸化炭素排出量も減少していると思われま